

短調には3種類のスケール（自然短音階、和声短音階、旋律短音階）があります。今回は、和声短音階（主音から7番目が半音上がり、行き帰りが同じ形のもの）と、旋律短音階（主音から6、7番目が半音上がり、帰りはナチュラル化する形のもの）という2種類を2小節フレーズの中にコンパクトに収めました。音の並びと指番号にも注目しましょう。

check!



check!

54
365



C#mスケールをマスターする

Track 055

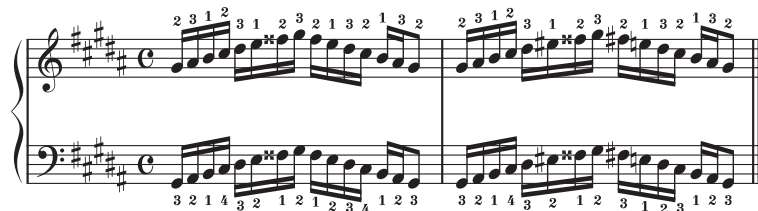
♩=60~

黒鍵スタートなので、弾き始めの指番号がほかのスケールと異なります。スケールにおいて、黒鍵を1の指から弾き始めることはほとんどありませんので、何かほかの曲を弾く時にも参考にしてみてください。



check!

55
365



G#mスケールをマスターする

Track 056

♩=60~

こんな調を鍵盤で弾くことはめったにないと思いますが……！ 音の並びとしては是非体験しておいて欲しいものです。全調完全制覇！に向けての道のりとして、しっかり取り組んでください。



check!

56
365



Emで2オクターブのスケールにトライ!

Track 057

♩=60~

主音から7番目の音を導音と言います。マイナー・スケールにはとても大事な音で、音楽的になるか否かの決め手と言っても過言ではありません。導音は、程良い緊張感を持って、丁寧に主音へ向かわせましょう。



スケールを習得しておく利点

基礎練習に欠かせないのがスケールですが、音の並びを規則的に覚えることで譜読みもスムーズになり、曲を弾く時、断然ラクになります。どこに♭がついて、どこに♯がつくのかという感覚も磨かれて、和声感覚も研ぎ澄まされていくでしょう。普段の練習では、自分が弾く曲の調で、スケールとアルペジオを先におさらいする習慣をつけておくのがオススメ。そして、自分が今「何調を弾いているか」を常に意識することが大事です。マイナーなのかメジャーなのか、そんな色合いもピアノ演奏に出していきたいところですね。